

# 月 1!!Global☆

— 自由な発想を fromYJK —

	代表者	山本祐司 (工学B 3年)
構成員	弘中眞子 (経済B 2年) 児玉聖治 (工学B 2年) 江川理菜 (経済B 2年)	
	中川幸亮 (経済B 2年) 板谷朋幸 (工学B 2年)	
	村口和史 (工学B 3年) 喜納一貴 (工学B 3年)	
	河村道雄 (工学B 3年) 村井一貴 (工学B 3年)	
	秋田真央 (工学B 2年) 水島早紀 (人文B 2年)	
	鈴木恵里 (人文B 2年) 持溝桂介 (工学B 3年)	

## ●目的と特徴●

当プロジェクトは、国際交流サークル YJK (Y 山口で J 自由な K 国際交流)の参加者、交流活動に興味のある人たちが運営される。プロジェクト参加者で1か月ごとにテーマを決め、そのテーマにそった交流イベントを企画する。当プロジェクトの特徴はイベントごとに企画者・参加者両方が流動的に変わるスタイルを基本とし、テーマもイベントもメンバーで自由に自発的に自然発生的に決めていくところにある。当プロジェクトのルールに従い、テーマにそった専門家を招く講演会をしたり、地域の方と一緒に交流するイベントを行ったりするなど自由に決めていく。

## ●イベント●

4月	茶話会	15人が参加。
5月	新メンバー交流会	テーマは国際交流、37人が参加。
6月	料理交流会	テーマは異文化、39人が参加。
7月	BBQ	テーマは協力、43人が参加。
8月	キャンプ	テーマは自然、22人が参加。
8月	asia college 2013	テーマは日韓、41人が参加。

## ●活動内容●

各月イベントに関してはイベント終了後に次月のイベントの小規模企画チームをつくり、そのチームを中心としてイベントの準備、参加者募集をした。

チラシ作り、チラシ配り、会場予約、講演者依頼、地域の人と交流、必要物品確保、ホームページや Facebook を使った勧誘などなど各月によって準備は異なった。メンバーたちが必要だと思ったことを最大限盛り込み自由にイベントを企画した。

5月からホームページ作成チームをつくり、毎週水曜日にホームページ作成をしている。デザイン担当、編集担当、分析担当の3つに分かれて活動し、当プロジェクトを裏から支えている。

当プロジェクトのイベントは実践型の交流活動を中心として活動してきた。世界各国の料理を一緒につくったり。自分たちで火を起し BBQ やカレーづくりをしたり、寝食をともにすることでより親密な関係になった。

留学生、他大学生、地域の方々などさまざまな参加者が集う国際交流の場所となっており、イベント以外でもここで出会った人同士の交流が続いている。たとえば Facebook、LINE など連絡をとりあったり、ご飯やおでかけ行ったりなどプライベートレベルの交流も続いている。



5月新メンバー交流会、ディスカッション



5月新メンバー交流会、講演会



6月料理交流会、チヂミづくり



6月料理交流会、立食パーティ



7月 BBQ、焼き場担当



7月 BBQ、仲良く夕食



8月キャンプ、カレー



8月キャンプ、キャンドルサービス



8月 asia college 2013、異文化交流



8月 asia college 2013、宮島にて



ホームページ作成チーム



イベント企画風景

●前期総括と後期からの展望●

4月にサークルを立ち上げてから半年が経つが、メンバーたち、教授や大学関係者、地域の方々など多くの人たちの協力のおかげで国際交流サークル YJK の大学生メンバーはまもなく 100 人を超える。留学生、他大学生、地域の方々など多くの人たちが集まってくれて交流の質が高まったと同時に、予想以上に規模拡大したためにイベント企画、運営が複雑になってきた。という問題も浮かび上がってきた。

7,8月と時が経つにつれて徐々にイベントの中心企画メンバーがある程度経験のある人同士に限定される状況が発生してしまい、企画者・参加者両方が流動的に変わるスタイルが薄くなってきた印象を受けた。そこで後期からは YJK の大規模な組織化し、自由で流動的な団体を目指す。

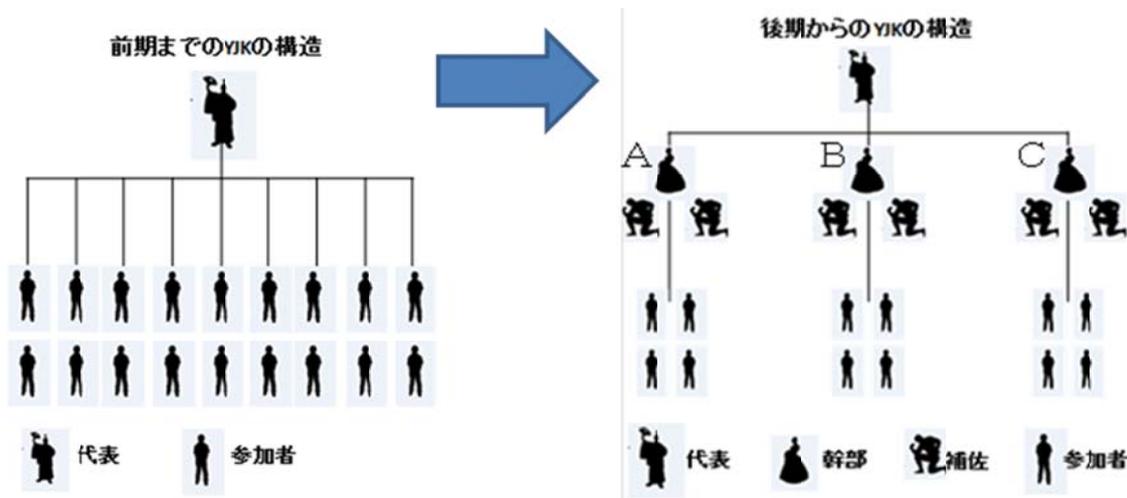


図1 YJK 団体構造改革

「図1 YJK 団体構造改革」のように部署やグループの核づくり、わかりやすく、活動しやすく、自発的に発生した企画部署が成長しやすくなるように、そして誰が企画者になっても大丈夫なようにマニュアルを作成した。

マニュアルは8月中に完成したため9月の全体説明で共通理解を図り、後期からの組織化に向けてそしてYJKの特徴の流動的なスタイル確立のために後期から再度動きなおす。

当プロジェクトの国際交流イベントに参加するだけでも楽しいが、メンバーたちにはイベントを企画するという一味違った楽しさも体験してほしい。ここでの経験は大学生活の思い出になるとともに自身の社会人基礎力、スキルアップ向上に役立つはずだ。